

# 万吉だより

MA GECHI NEWS

第 15 号 平成 23(2011)年 12 月

## 博物館資料の充実

館長 池上 悟

立正大学博物館は、文学部考古学研究室が長年の発掘調査によって蒐集した考古資料、縄文文化研究者として著名であった立正大学同窓の吉田格氏が関東地方を中心として蒐集された縄文文化関連資料、梵鐘研究者として知られる真鍋孝志氏蒐集の鐘資料を主体として、教育・研究施設として平成 14 年に開館した。

収蔵資料は考古資料が主体であるが、将来的には総合博物館を目指して資料の充実を図る点は当初より意識されてきたところである。

博物館開館以来、多くの資料の寄贈を受けてきた。1 に第 27 代立正大学学長、初代館長も務められた、名誉教授である坂詰秀一博士の考古学関連文献資料、2 に吉田格氏の縄文文化関連文献資料、3 に縄文文化研究者として著名である慶応大学名誉教授の江坂輝弥博士の遺跡写真を中心とした資料、4 に経塚研究者として著名であった三宅敏之氏による経塚関連資料であり、考古学関連資料を主体とするものであった。

本年は、前立正大学学長である名誉教授の高村弘毅博士から、自然分野の多くの資料の寄贈を受けた。高村弘毅博士は青森県出身の立正同窓の自然地理研究者であり、地下水を長く研究されてきた。地下水に関連して世界各地の砂漠の環境調査を行われ、さまざまな資料を収集されてきた。各地の砂漠の砂、各種の岩石関係資料、化石資料などである。

ここによりやく立正大学博物館を総合博物館化する具体的な資料が寄贈されたものであり、極めて重要な意義を有するものと認識されよう。今後とも、博物館に広く資料を収蔵して総合化を実態あるものとして進めていきたい。一つには図書館などに収蔵されている大学史関連資料の博物館への一括保存であり、大学の中心としての博物館の位置づけも可能となろう。

## 第 8 回企画展 石器のいろは～収蔵資料の紹介～

平成 23 年 7 月 4 日(月)～8 月 6 日(土)にかけて、第 8 回企画展「石器のいろは～収蔵資料の紹介～」を開催しました。

立正大学博物館では、常設展示において吉田格コレクションや久保常晴樺太コレクション、立正大学考古学研究室収蔵資料などで石器を展示しています。今回の企画展では、この石器について収蔵資料と合わせて紹介しました。

収蔵資料からは、東京都町田市に所在する本町田遺跡、埼玉県川口市に所在する石神貝塚、東京都品川区馬込に所在する馬込貝塚、東京都大田区久が原採集などの石器を展示しました。

石器とは、石を使った道具の総称で、木器・金属器などと対比されます。加工の方法からみると打製石器や磨製石器に大別され、用途からみると生活用具・信仰関係・装身具など多様な用途が推測されます。

石器はどのようにしてつくられたのでしょうか。石器が主に使われていた時代(旧石器～弥生時代)には文字がなく、記録が残っていません。遺跡から出土した遺物を詳細に観察し、答えを導き出します。しかし、遺物の観察からだけでは不明な点も出てきます。そこで、実際にその遺物を作ってみるにより検証する実験考古学という分野があります。

実験考古学は、単に資料を復元するだけでなく、元の資料を検証することを目的としたものです。

石器の製作では、大きく分けて打製(打ち欠く)・磨製(みがく)・敲打(コツコツたたく)という 3 つの動作に分れ、台石剥離法、直接打撃法、間接打撃法、押圧剥離法、敲打法、研磨法、擦切り法などが使われます。

また、剥片石器を作る技法として両極打法、ルヴァロワ技法、瀬戸内技法などがあります。ルヴァ

立正大学博物館 第8回企画展  
**石器のいろは**  
～収蔵資料の紹介～  
平成23年7月4日(月)～8月6日(土)

開催会  
「石器制作と人々の思い」  
～実験考古学で明らかになること～  
講師 久保常晴氏 (立正大学博物館館長)  
開催 平成23年7月25日(土)  
13時30分～17時  
会場 熊谷市中央公民館  
入場料 観覧無料(観覧券は別途発行)  
観覧券の申し込みは  
熊谷市中央公民館 048-536-6170

問合せ先：048-536-1688 入場券：無料  
休 日：火・日・祝日、大学休業日  
場 所：立正大学博物館2F  
お問い合わせ  
〒300-0194 埼玉県熊谷市万石1700  
E:048-536-6150/Fax:048-536-6170  
Email: museum@stuc.ac.jp  
URL: http://www.stuc.ac.jp/museum/

協力 熊谷市中央公民館

### 第 8 回企画展チラシ

ロワ技法は、ヨーロッパの中期旧石器文化に特徴的な技術とされ、剥片の形を規定するため、石核の剥片剥取面を入念に整えるところが特徴的です。瀬戸内技法は、翼状の剥片をつくるものです。サヌカイトを素材とした横剥ぎの連続した特殊な技法で、この技法によって作られた石器の代表的なものとして、国府型ナイフ形石器があります。

また、押圧剥離では胸圧法、湧別技法などがあります。胸圧法は、中米の先史時代の石器づくりにみられ、棒の一端を胸に当てて地面に固定した石核を押し剥ぐ方法で、薄く狭長な石刃を作る方法です。湧別技法は、木の葉形の両面石器を素材とし、その長軸に沿うように削片(スボール)を剥し打面を作ります。そこから一定の部位に一定の方向から剥離をし、定形の剥片を連続的に剥していく方法です。北海道の湧別遺跡出土例が標式となっています。

このように様々な方法で石器は作られています。その方法を検証していくことが実験考古学といわれます。

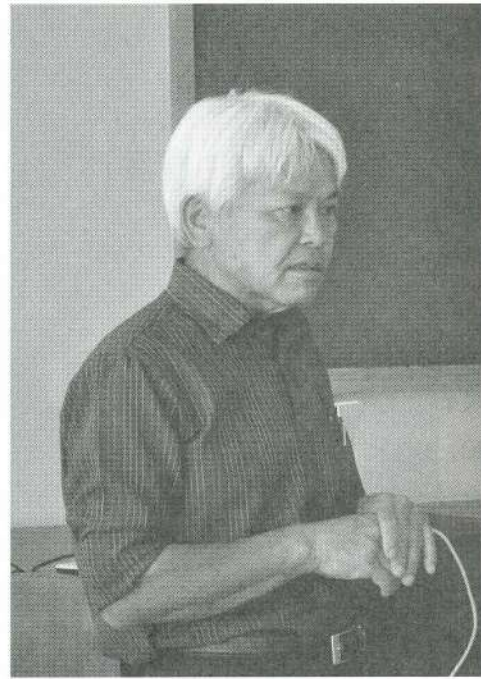


本町田遺跡は、東京都町田市本町田に所在し、昭和 42 年 7 月～昭和 43 年 4 月に立正大学考古学研究室によって調査され、縄文時代早期～中期、弥生時代中期、奈良・平安時代集落跡が確認されました。現在遺跡公園として東京都の指定史跡として保存されています。本町田遺跡出土品からは、石鏃 16 点、石匙 5 点、打製石斧 1 点、浮子 1 点、石皿 2 点を展示しました。

石神貝塚は、昭和 29 年～30 年に B 貝塚が立正大学考古会と川口市教育委員会によって調査されました。貝塚は標高約 20m の台地上から斜面にかけて立地する、縄文時代後期～晩期の小貝塚で、打製石斧 10 点、磨製石斧 1 点、石剣 3 点、石皿 1 点を展示しました。なお出土した土器などの一部は常設展示しています。

その他に、吉田格コレクションの収蔵資料より、神奈川県下組貝塚より打製石斧 1 点、神奈川県杉田貝塚より打製石斧 1 点を、また収蔵資料から東京都久が原出土打製石斧 22 点、東京都馬込貝塚出土打製石斧 2 点、茨城県前浦遺跡出土石剣 1 点、静岡県自由峠付近採集黒曜石原石、香川県善通寺市採集サヌカイト原石、北海道白滝遺跡採集黒曜石、石核・石刃などを展示しました。

また、7 月 23 日（土）には、記念講演会として、久保田正寿氏（立正大学非常勤講師）に「石器製

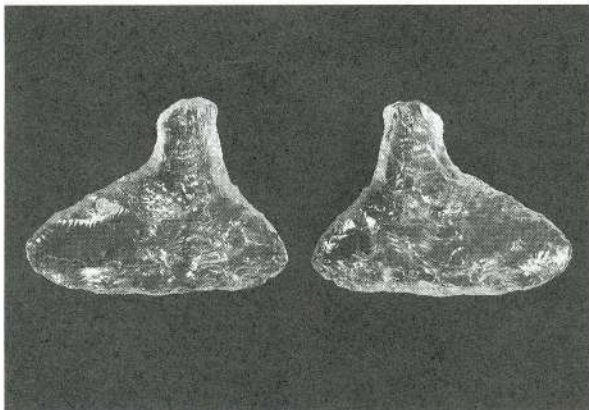


久保田正寿氏の講演

作と人々の思い～実験考古学で明らかになること～」と題して、熊谷市中央公民館において講演を行って頂きました。

そして、9 月 16 日（金）～10 月 15 日（土）にかけて、大崎校舎 5 号館 1 階ロビーにおいてパネルによる移動展示を行いました。

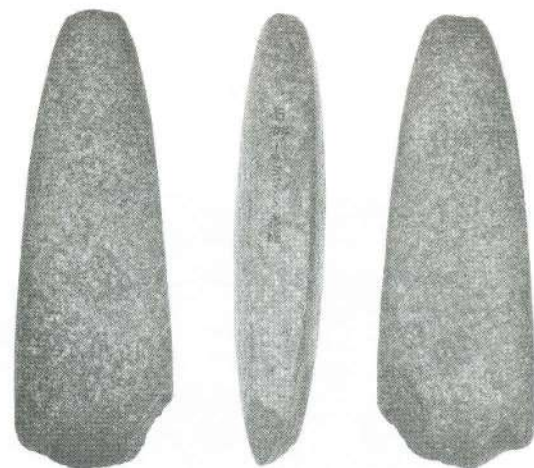
（学芸員 内田勇樹）



石匙【本町田遺跡出土・水晶製】

大きさ；最大縦 2.1cm / 横 2.8cm

重 さ；2.4g



磨製石斧【石神貝塚出土・凝灰岩製】

大きさ；最大縦 16.2cm / 横 5.6cm

重 さ；492g

収蔵資料紹介

立正大学博物館の第 1 展示室に展示されている資料のなかに、石神貝塚出土の遺物が展示されています。

石神貝塚は、埼玉県川口市に所在する、標高約 16～20m の台地上に立地する、縄文時代後期～晩期にかけての貝塚です。

古くから学界に知られていた貝塚で、昭和 5 (1930) 年頃に大山史前学研究所の大山柏氏・池上啓介氏による調査が行われています。その後も鈴木尚氏、山内清男氏、吉田格氏、江坂輝彌氏、野口義磨氏などの研究者達による調査が行われています。

立正大学考古学会は、昭和 29～30 年にかけて B 貝塚を発掘調査しました。

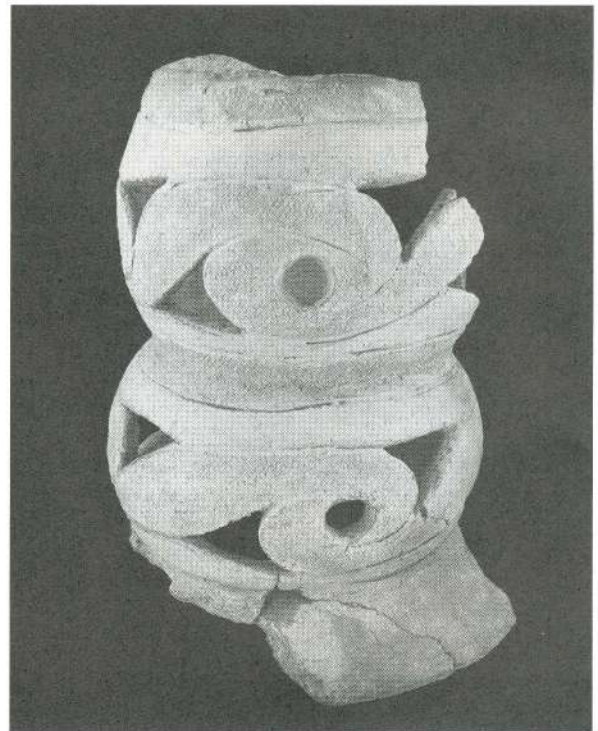
調査によって、後・晩期の土器片の混在する表土層、安行Ⅲ a・Ⅲ b 式期の第 1 貝層、安行Ⅱ式の第 2 貝層、安行Ⅰ・Ⅱ式の第 2 貝層、加曾利 B 式の貝層下土層に分れる層位関係であることが確認されました。

出土した遺物は、縄文土器 (加曾利 B 式・安行Ⅰ～Ⅲ式ほか)・石鏃・石錘・石斧・磨石・石皿・凹石・石棒・耳環・骨角器・貝輪・土製品・貝類・獣骨類などです。貝類は、ヤマトシジミ・オキシジミ・オオタニシ・カワニナ・ヒダリマキマイマイ・マツカサ・ハマグリ・サルボウ・オオノガイ・ハイガイ・アカニシ・ツメタガイ・ナガニシ・ア

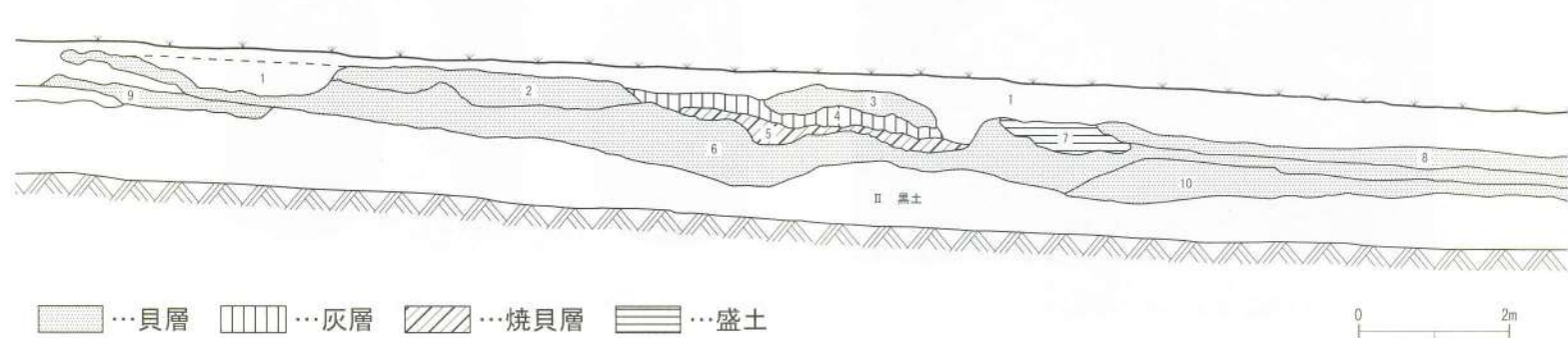
サリ・マテガイ・キシヤゴ・イタボガキ・ナミコギセルなどが出土しています。また、獣骨類はシカ・イノシシが主に出土しています。魚類ではイルカ・タイ・サメなどが出土しています。

出土遺物のなかでも耳環 (約 70 点) や完形に近いミミズク形土偶、波状縁の貝輪などが注目されます。

(学芸員 内田勇樹)



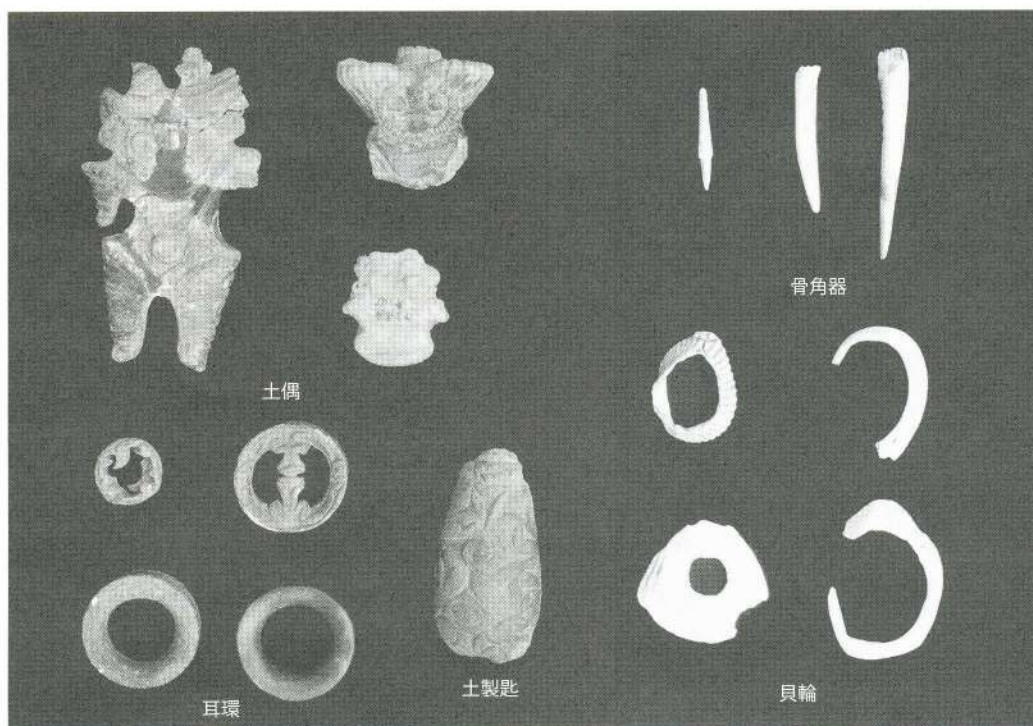
石神貝塚出土・異形器台形土器



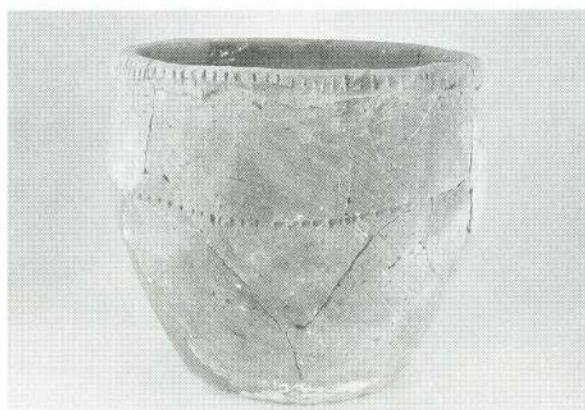
石神貝塚 中央トレンチ断面図

(立正大学考古学会編『川口市石神貝塚発掘概要』川口市教育委員会 1955 年 2 月発行より一部加筆・転載)





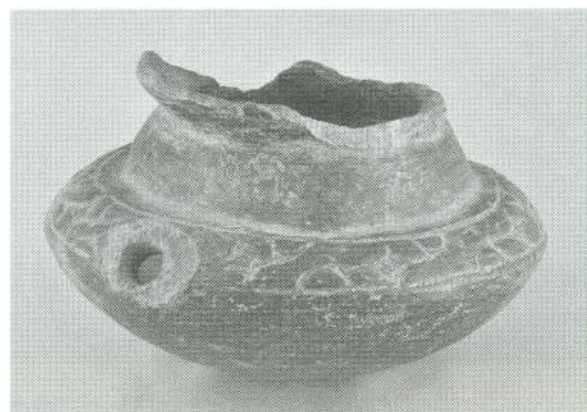
土偶・耳環・土製匙・骨角器・貝輪



深鉢形土器



異形器台形土器



注口土器

石神貝塚出土遺物

**寄 贈 資 料**

平成 23 年 5 月に、高村弘毅氏（前立正大学学  
長・立正大学名誉教授）より、自然関係の以下の  
資料を寄贈して頂きました。立正大学在任中に沙  
漠を中心として、世界各地の自然環境を調査され

た折に入手された貴重な資料です。今後整理を行  
い、常設展示において公開できるようにしてい  
きます。

・世界各地の沙漠の砂資料…37 点

Tarim 公路（塔中）

Taklimakan Daryaleui 大河沿

タクリマカン沙漠の砂

シルクロード敦煌の砂

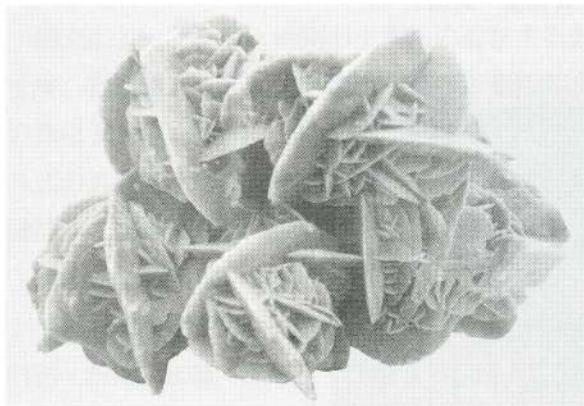
など

・岩石関係資料…41 点

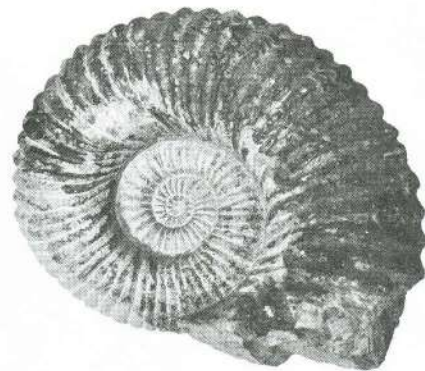
沙漠のバラ・三陵石・侵食岩・三校石・風化石・  
砂岩・石灰岩・カルサイト・岩塩・など

・化石資料…4 点

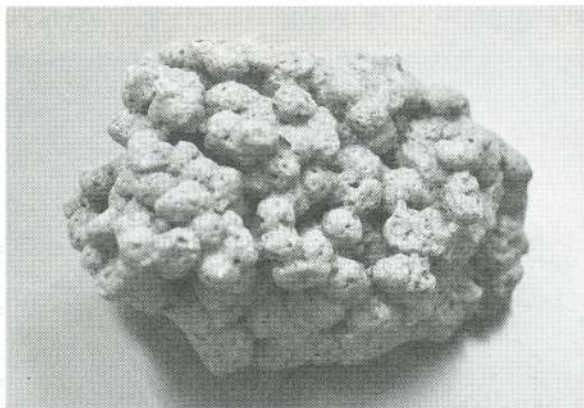
アンモナイト・三葉虫・有孔虫の酸化・珊瑚



沙漠のバラ



アンモナイト



丸い粒の岩石



タクリマカン沙漠ダリヤブイ砂丘の砂



## NEWS

## 入館者数

平成23年4月1日から12月25日までの入館者数は1,336名です。

4月(21日間)…10名、5月(18日間)…136名、  
6月(22日間)…207名、7月(21日間)…233名、  
8月(7日間)…268名、9月(8日間)…32名、  
10月(21日間)…211名、11月(19日間)…193名、  
12月(16日間)…46名

## 館務実習

平成23年度の博物館館務実習は、以下の日程で行いました。実習生は、文学部史学科4名、地球環境科学部環境システム学科1名、大学院文学研究科史学専攻修士課程2名の7名でした。

・6月23日(水)

館長による野外実習事前講義

・7月10・17・24日(日)

野外実習(3日間のうち1日出席)。熊谷市上奈良に所在する妙音寺にて、近世墓石の資料収集実習を行いました。

・8月22日(月)

午前・文化史講演(市川修氏(埼玉県立歴史と民俗の博物館))

午後・刀剣の取扱い(田陽和久氏(文学部社会学科准教授))

・8月23日(火)

梱包実習



借用資料点検調書の作製の様子

## 出版物

平成23年度上半期は、下記の出版物を刊行しました。

・第8回企画展図録『石器のいろは～収蔵資料の紹介～』

・『立正大学博物館年報』9号

・8月24日(水)

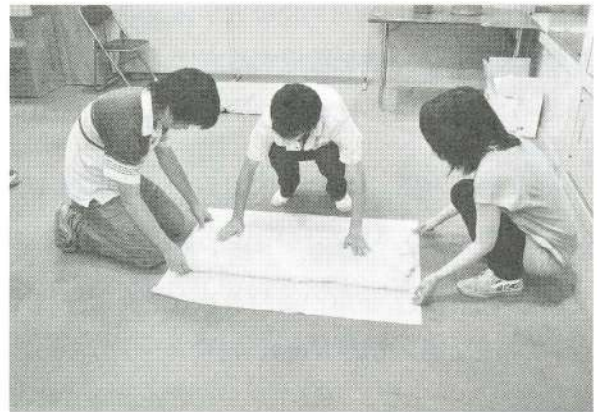
資料台帳作成

・8月25日(木)

写真撮影実習

・8月26日(金)

拓本・裏打実習



梱包用綿布団の作製の様子



梱包の様子

## 見学者の声

当館では、来館者の皆様の皆様の意見を反映する為メッセージ箱を備えております。下記のご意見は寄せられたご意見から事務局で集約したものです。貴重なご意見ありがとうございました。今後の博物館運営に役立たせて頂きたいと思っております。

・博物館を初めて見学しました。様々な資料があり、おもしろかったです。

(県内・本学学生・20代男性)

・特別展を見に来ました。石器の作り方が単純で簡単なものだけということが驚きでした。

(県内・本学学生・20代女性)

・「石器のいろは」を見学に来ました。いろいろな石器が一同に見ることができ、良かったです。

(県内・一般・40代男性)

・特別展を見にきました。黒曜石の原石がすごかったです。

(県内・一般・50代女性)

・梵鐘の複製品の音色が綺麗でとても良かったです。

(県内・一般・60代女性)

・お釈迦様のころの土器などが見れて驚きました。日本の土器と違った質で勉強になりました。

(県内・一般・60代男性)

## 利用案内

所在地：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

立正大学熊谷キャンパス内

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

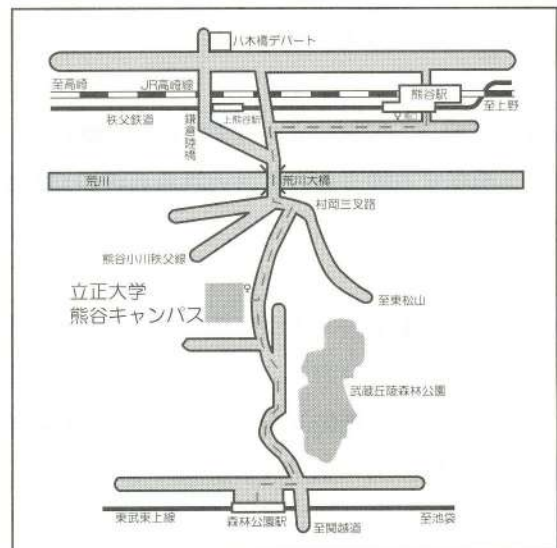
開館日：月・水・木・金・土曜日（大学休業中を除く）

開館時間：10:00～16:00

※休館日（火・日・祝日）及び大学休業中（夏・冬・春期休暇等）に見学を希望する方は、事前に博物館あるいは総務部総務課（048 - 536 - 6010）にご連絡下さい。

交通機関：① JR 高崎線、上越・長野線幹線、秩父鉄道「熊谷駅」下車。南口より立正大学行バス（国際十王交通）で約 10 分。

② 東武東上線「森林公園駅」下車。北口より立正大学行バス（国際十王交通）で約 12 分。



## あとがき

平成 23 年度の企画展として「石器のいろは～収蔵資料の紹介」を行いました。常設展示においても石器は展示していましたが、収蔵資料の中にも多くの石器があり、今回の企画展を開催することにしました。今後も収蔵資料の紹介を行える展示を開催していきたいと思っております。

(内田)

立正大学博物館館報 万吉だより 第 15 号

平成 23 (2011) 年 12 月 25 日発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

URL : <http://www.ris.ac.jp/museum/index>

題字揮毫 田淵観斎（立正大学名誉教授）

（印刷：光写真印刷株式会社）